

## 若いママたちとのHUG (避難所運営ゲーム)

HUG (避難所運営ゲーム) は、2013年に6回ほど行い、2014年に名古屋市の小学校教諭の体験談ビジネスマンの進め方も盛り込んでバージョンアップさせています。今までの参加者は地域で役をしている方、ファシリテーション協会の方、教師の方などが主な参加者でした。今回は、初めて、小さなお子さんをもっているママが多く参加してくださいました。

### ☆内容は

どこの市町村でも、東日本大震災で応援で現地にいらっしゃった方がいます。できるだけ参加者の皆さんにそのときの状況を知っていただきたいこと、参加される方々の住む自治体には業務としてその支援に行った職員がいること、その職員がどんなことをしてきたのかなども知っていただきたいと思い、支援にいらした職員の方の報告時間を設けています(今回も消防でいらした方が快く引き受けてくださったそうです)。

その後、避難所の様子を写真をみながら共有し、いよいよHUGを始めて行きます。

### ☆HUGの進め方の特徴は

通常HUGは、グループごとに自主的に進められます。私が初めて参加したHUGもその進め方でした。残念なのですが、避難所運営のポイントや、このときの課題は何なのか？みなさんはどう対応したのか？などが共有しづらいなあと感じました。

そこで、臨床心理士の成田有子さんと、自分が参加したら納得できるHUG、何か一つでも心に残るHUGの進め方を開発したのです。

ゲームの途中で参考になるヒントや実際にあったこと、心のケアの方法などを盛り込みました。これなら何か一つでも印象に残るものになる、と確信しました。

### ☆若いママさんたちも

乳幼児を抱えて避難所へ行くことのしんどさを想像し、どうやったら避難所生活がママにも、もちろん子どもたちにもストレスの少ないものになるかについて、じっくりと話し合うHUGになりました。さらに、高齢者や障がいのある方への配慮についても、いろいろな場面を想定しつつ進めていらっしゃいました。成果を出すというよりも、一番ストレスが少ないのはどこ？を優先していらしたようです。

☆今までのHUGでは、ゲームが進行するとだんだん心が無くなっていく気がするという感想がたくさんあったのですが、今回は、会場が優しい空気が満ちていたような気がしました。

